

学級・授業づくりセミナー

～進みつつある教師のみ、人を教える資格あり～

8月2日(金)に南相馬市立原町第二小学校を会場として開催した本年度の学級・授業づくりセミナーでは、各校から約50名の参加がありました。

共通講座では福島大学人間発達文化学類の柳沼哲特任教授より「特別支援教育の視点での授業づくり」をテーマとして講義をいただきました。各教科等の講座では国語、社会、算数・数学、理科、外国語・外国語活動、図画工作・美術、体育・保健体育に分かれ、それぞれ普段の実践などを基にした協議を行い、どの講座でも熱心な学び合いの姿が見られました。



本年度は、教員志望の大学生・高校生の参加があり、主体的に学び続ける先生方の姿を見て、「これからの教育実習や自分の進路選択に生かしたい」という感想が寄せられました。

次年度もたくさんの参加をお待ちしております。

〔社会教育担当より〕

地域学校協働活動の振り返り

全ての学校で地域連携担当教職員が任命され、多くの市町村で地域学校協働本部が立ち上げられています。地域学校協働活動が社会教育法に位置付けられてから8年が過ぎましたが、先生方はその活動の効果を感じておられるでしょうか。児童・生徒の社会性は育まれていますか。先生方の多忙化解消につながっていますか。地域コミュニティは活性化していますか。地域も学校も、子どもたちのためにということでは一生懸命頑張っていますが、強くその効果を感じとれるところにはなかなか至らないようです。

このような中でも、地域学校協働推進員や地域連携担当教職員が中心となって、すばらしい協働活動を繰り広げている学校や地域が相双地区にも増えてきています。そこで、相双教育事務所では、地域学校協働活動の訪問を行い、その成果を情報発信しています。また、地域学校協働活動に関する研修会(次回は11月開催)も計画しておりますので、どうぞ御活用ください。

学校だけでは教育活動が大変だと感じた時は、身近な地域の方々に声を掛けてみてください。学校を核とした地域づくりを相双地区から発信していきましょう。

「対話的な学び」を具現する授業デザイン例



相双教育事務所では、「主体的、対話的で深い学びの授業改善に向けたポイント」や仕掛けや発問のヒントを載せた授業デザイン例をWeb上の特設コーナー「Sou Sou 授業づくり支援ナビ」に掲載しています。5分間程度の授業動画付きのものもあります。ぜひご活用ください。

〔管理担当より〕

始めの一步

「教育行政の本気度」これは福島県教育委員会が教職員の働き方を覚悟を持って改革していくため、名称も含めて大きく見直した「教職員働き方改革アクションプラン」に記されているものです。今回から加わったサブタイトル「みんなで 変わろう! 変えよう! 子どもたちの未来のために」には、これからの福島県の学校の在り方を象徴するメッセージが込められています。教育委員会も学校も、今からできることを直ちに進めていこうということです。

大切なのは、県が打ち出した改革のテーマを傍観せず、アイデアがあれば受け入れながら一緒にやってみることです。「この行事は一年おきに開催してはどうか」、「あの会議はオンラインでやってみよう」。そんなことを気軽に話し合える職場の雰囲気づくりが改革に向けての「始めの一步」なのではないでしょうか。

今後の主な研修会等の予定(9月～12月)

- | | |
|-----------|---|
| 9月13日(金) | 中学校教育課程研究協議会(かしま交流センター) |
| 9月20日(金) | 小学校教育課程研究協議会(かしま交流センター) |
| 9月24日(火) | 幼児期のカリキュラム研修会(万葉ふれあいセンター) |
| 9月27日(金) | 避難12市町村における少人数教育に対応した教授法に関する教員研修(東日本大震災・原子力災害伝承館 双葉町産業交流センター) |
| 10月25日(金) | 特別支援学級等新任担当教員研修会(かしま交流センター) |
| 10月31日(木) | 特別支援学級教育課程研修会(かしま交流センター) |
| 11月21日(木) | 福島県教育研究発表会(各所属校) |
| 12月6日(金) | 域内学力向上推進研究協議会(万葉ふれあいセンター) |

その他、各種研修や協議会の予定については、「令和6年度相双域内行事一覧」及び各開催通知をご確認ください。



地域での暮らしの体験

相双教育事務所次長(総務)兼総務社会教育課長 滝本 裕彦



住んでいる地域への愛着は、どのように生まれるのだろうか。

大学時代に暮らした街は、今でも愛着がある。下宿の大家さん、アルバイト先の店長など、土地の人々との関係や地域の空気感が街への愛着を形作っている。そこは、りんごの街だったので、今でもりんごを見ると思い出す。

住んでいる地域での暮らしの体験は、単なる積み重なった記憶ではなく、その人の考え方や判断、生き方に影響すると思う。

相双地域に住んでいる子どもたちも、農業や漁業、地域の様々な産業の体験、野馬追や盆踊りといった伝統行事、地元神社のお祭りなどを体験する。そし

て、そこで出会った大人たちの言動が、いつの間にか、子どもたちの行動モデルになるかもしれない。

大人は、どのように地域の子どもたちに接することができるだろうか。

地域で暮らす大人は、地域の子どもたちの体験・学びを意識し、どれだけ多様な機会・選択肢を示せるだろうか。

今年7月、家庭で要らなくなった「おもちゃ」を皆で交換する「かえっこバザール」が4年ぶりに開催された。

地元の大人だけではなく、高校生や県外からのボランティアと共に、私も運営に参加した。

来場した地元親子らの楽しそうな表情は、その場での体験が、やがて地域を形成していく原動力となる可能性を予感させる私の体験だった。

相双との縁

相馬市教育委員会教育長 福地 憲司



【平成23年5月上旬 福島市教委学校教育課管理主幹時】

相双地区からの兼務発令教職員82名の名簿が届いた。私は区域外就学児童生徒を多く受け入れることとなった福島市内該当小・中学校へその82名を充てるべく、その計画作成と配置業務に当たった。相双の先生方の思いを慮れば、不眠不休も何ということではなかった。

【平成29年 福島第四中学校長 県中学校長会長時】

10月19日、20日に東京国際フォーラムにおいて、中学校教育70年記念全日本中学校長会東京大会が開催された。19日の記念式典には皇太子同妃両殿下(現天皇皇后両陛下)のご台臨を賜り、その式典後

に急遽、東日本大震災被災3県(岩手県・宮城県・福島県)の校長会長が別室に召集された。皇太子同妃両殿下へのご接見ということではあったが、両殿下と約10分間にわたり各県の状況等についてお話をさせていただける機会を得た。

私からは、福島県は原発事故という被災を抱えており、特に、相双地区をはじめとする子供たちは大変な苦難に向き合っていること、子供たちに「これからの世の中を力強く生き抜く力」を付けたいという思いでいること等を述べていただいた。

【令和6年 相馬市教委教育長時】

相双とのこれらの縁を感じ、「力強く生き抜くひとづくり」(くしくも相馬市教育委員会の基本理念)のために、今度は具体的な施策をあれこれ考えている。

学力向上支援アドバイザー事業

本県全体の傾向として課題が見られる算数・数学について、学力向上支援アドバイザーを配置することにより、教員の授業力向上を図り、児童生徒の資質・能力の育成を目指します。(県内に10名配置)

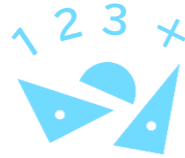
学力向上支援アドバイザーは、勤務校において、教員の授業力向上に向けた助言、ふくしま学力調査や全国学力・学習状況調査の分析支援、算数・数学の授業づくりに取り組む教員の支援、現職教育や教科部会等での助言等を業務として行います。なお、今年度より近隣校への支援訪問が可能となっております。

【学力向上支援アドバイザー】

佐藤 博 講師

【アドバイザー勤務校】

八幡小学校 飯豊小学校(所属校)
日立木小学校 向陽中学校



イノベーション人材育成推進教員活用事業 (算数・数学)

【算数・数学科授業研究会】

全国学力・学習状況調査の結果や自校の課題を踏まえた算数・数学科イノベーション人材育成推進教員による授業を参観し、算数・数学の学力向上に向けた授業改善の視点や方策について協議するとともに有識者の講演を聴くことにより、本県教員の更なる指導力向上を図ることを目的としています。以下の日程で実施予定です。

9月4日(水) 第一回中学校授業研究会 鹿島中学校
12月18日(水) 第二回中学校授業研究会 鹿島中学校
1月24日(金) 第二回小学校授業研究会 中村第一小学校

なお、9月4日の授業研究会では国立教育政策研究所学力調査官島尾裕介様より、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業改善の在り方について、講演をいただく予定です。また、1月24日の授業研究会においても、有識者による講演を予定しております。

イノベーション人材育成推進教員活用事業 (理科)

【理科授業力アップ研修会】

公開授業、研究協議、大学の先生による理科授業づくり講演等を通して、STEAM教育の視点を生かした授業や探究的な授業について実践に基づいた研修を行っています。明日からの授業づくりにつながる研修です。以下の日程で研修を予定しています。

9月11日(水) 理科実験講座 浪江町 ふれあい交流センター
9月30日(月) 中学校授業研修会 中村第一中学校
11月12日(火) 小学校授業研修会 新地小学校

9月30日(月)の授業研修会では福島大学准教授平中宏典様、11月12日(火)の授業研修会では福島大学准教授鳴川哲也様よりそれぞれ授業づくりに関する講演をいただく予定です。

小学校の先生は、現在理科を担当されていなくても参加できます。



ふくしま英語力向上事業 外国語教育推進リーダー活用事業

【ふくしま外国語教育推進リーダー活用事業】

小中連携及び外国語教育推進リーダーの指導法等の普及を目的とした事業です。7月4日(木)に福田小学校、中村第一中学校でそれぞれ授業公開及び研究協議を行いました。

今後は、以下の日程で授業公開を実施する予定です。

9月17日(火) 新地小学校
11月6日(水) 中村第二小学校

【小中高連携推進事業】

パフォーマンステストで南相馬市の小中高の児童生徒の学びをつなぐことを目的とした事業です。今後は以下の研究指定校での授業公開を実施しながら、パフォーマンステストの活用方法を深めていきます。

9月6日(金) 原町高等学校
11月13日(水) 原町第一小学校
11月27日(水) 原町第一中学校



未来を拓く教育を 相双から

不登校・いじめ等対策推進事業 スペシャルサポートルーム(SSR)

【不登校・いじめ等域別シンポジウム】

6月26日(水)に万葉ふれあいセンターで実施された域別シンポジウムでは、令和4年12月に改訂された生徒指導提要の内容やいじめ防止対策法第30条第3項に基づく調査結果報告にも触れながら、不登校・いじめ等対策について要点を共有することができました。グループ協議と自己肯定感を高める講話や心のサポートプログラムの体験を通して児童生徒理解を深めました。

【スペシャルサポートルーム(SSR)]

実践校 尚英中学校 中村第一中学校
中村第二中学校 原町第一中学校

不登校児童生徒の居場所づくり、空き教室を活用した魅力的な環境づくり、新たな不登校を生まない安心できる空間づくりに関する取組を行っております。各校の創意工夫による取組も広めて参ります。

スマート社会を担う産業人材育成事業

本事業の小事業である「専門教育魅力発信応援事業」において、域内の小中学生が専門高校で体験学習を行います。7月16日(火)に連絡会議が行われ、各専門高校での体験日程が以下の通り決定しました。

○ 相馬農業高等学校
11月19日(火) 石神第二小学校
11月22日(金) 石神中学校

作物の収穫・洗浄、牛舎の管理作業・肉牛のブラッシング、花きのポット詰め、庭木の剪定、レベル測量、がんづきの製造等を予定しています。

○ 小高産業技術高等学校
10月31日(木) 小高中学校
11月19日(火) 高平小学校・大甕小学校・小高小学校

商業分野では、ペットボトルのパッケージデザイン、お金について考える講座を予定しており、工業分野では、3D-CAD・3D-Printerの体験、アルミキーホルダーの製作、ミニソーラーカーの製作、電子回路の製作、葉脈しおりの製作を予定しています。



ふくしまの誰一人取り残さない教育 体制整備事業

本事業では、各市町村教育委員会による支援体制の整備と地域における特別支援教育の充実を目指し、「特別支援教育体制促進協議会」を実施しております。

第1回は、就学前から学校卒業後までの切れ目のない支援体制の構築に向けて、教育的支援を必要とする子どもの義務教育終了後の現状と課題、支援のあり方について協議しました。また、相談支援アドバイザーより、これまでの相談内容を踏まえた地区の傾向についてお話をいただきました。お話から、震災後の避難生活による負担が保護者に大きなストレスをもたらし、子どもにも影響を及ぼしているケースがあることを共有できました。

保健福祉関係者の方々は継続して相談を受け、本人や家族を支えています。教育関係者も個別の教育支援計画等を用いながら情報を共有し、自立と社会参加の実現につなげることを重要であることを確認し合いました。

ふくしま幼児教育研修センター事業

7月30日(火)に富岡町文化交流センター「学びの森」で令和6年度幼児教育実践研修会・幼小連携研修会を開催しました。相双域内の幼稚園等の指導者や小学校の教諭等が参加し、子どもの運動遊びに関する講義や、幼保小の学びのつながりの理解、架け橋プログラムの理解についての協議等が行われました。

また、8月19日(月)には第2回幼保小連携・接続研修会が推進モデル地区である南相馬市で開催されました。午前の部では、かしま保育園が公開保育を行いました。午後の部では参観した子どもの姿や保育者の働きかけを基に、架け橋期の子どもの学びをどのようにつないでいくか、どのようなカリキュラムを作成すればよいかを協議しました。

どちらの研修会においても、参加者の先生方はご自分が担任する子どもの姿を思い浮かべながら、活発に情報交換をしていました。このように校種の壁を越えて協議を深めることが相互理解につながり、架け橋期の学びの充実につながります。

